

地域社会保障教育推進事業 実施報告書

平成 26 年 2 月 14 日

株式会社政策研究所

地域社会保障教育推進事業
実施報告書目次

1. 全体スケジュール.....	1
2. 委託事業実施状況報告	2
(1) 実施体制.....	2
(2) 学校の選定・調整過程	3
(3) 社会保障教育プログラムの策定	4
(4) 授業の実施	10
(5) アンケート調査.....	16
3. 授業の実施結果の検証	26
(1) 都立荒川商業高校	26
(2) 敬愛学園高校.....	28
(3) 洗足学園中学高等学校	30
4. 社会保障教育の全国展開・定着に向けた考察.....	32
(1) 現状の課題	32
(2) 提案.....	32

1. 全体スケジュール

本スケジュールは、授業実施校3校（都立荒川商業高等学校、私立敬愛学園高等学校、私立洗足学園中学高等学校）についての概要を示したものである。

	学校側との調整等	プログラム等作成	授業の実施
H25 8月	↑ 実施校の選定		
9月			
10月	↓ 実施校の選定	↑ プログラムの策定	
11月	↑	↑ 教材の策定	荒川商業高等学校授業 (2コマ)
12月	↓	↓	
H26 1月	↓	↓	敬愛学園高等学校授業 (2コマ) 洗足学園中学高等学校授業 (2コマ)
2月			

2. 委託事業実施状況報告

(1) 実施体制

①受託者

事業者である株式会社政策研究所の実施体制は以下のとおりである。

	氏 名	所 属	電話番号
総括責任者	山本 公大	政策科学部主任研究員	03-6804-6606
事務局担当者	蓑田 健二郎	同副主任研究員	同上
	山賀 誠一	同研究員	同上
	栗本 敏夫	同研究員	同上
経理担当者	川田 聖子	総務部	同上

②授業の実施校

学校名 (所在地)	国 公 私	科	学 年	人 数	充当教 科	担当教諭・講師	実施日
都立荒川商業高等学校 (東京都足立区小台 2-1-31)	公	総合ビジネス科	3	33名	現代社会	石井 雅洋 (公民担当教諭)	平成 25 年 11 月 14 日 平成 25 年 11 月 21 日
敬愛学園高等学校 (千葉県千葉市稲毛区 穴川 1-5-21)	私	特進科	2	33名	総合学習	雨谷 稔彦 (進路指導部長)	平成 26 年 1 月 14 日 平成 26 年 1 月 21 日

学校名 (所在地)	国 公 私	科	学 年	人 数	充 当 教 科	担 当 教 諭 ・ 講 師	実 施 日
敬愛学園高等学校	私	普 通 科	1	60 名	総 合 学 習	雨谷 稔彦 (進路指導部長)	平成 26 年 1 月 17 日
洗足学園中学高等 学校 (神奈川県川崎市高 津区久本 2-3-1)	私	普 通 科	2	36 名	政 治 経 済	綾部 沙織 (公民担当教諭)	平成 26 年 1 月 28 日 平成 26 年 1 月 29 日

(2) 学校の選定・調整過程

①当該学校の選定に至った経緯

【都立荒川商業高等学校】

○教育委員会への協力要請の中で同校が推薦され、担当教諭に電話や訪問にてモデル授業実施の趣旨説明を行い実施を決定した。

【敬愛学園高等学校】

○過去に調査に協力していただいた同校の教諭にモデル授業実施の協力を要請し、紹介していただいた担当教諭に電話連絡や訪問等を行い実施を決定した。

【洗足学園中学高等学校】

○「神奈川県高校一覧」をもとに同校に直接電話をかけ、担当教諭にモデル授業実施の趣旨説明を行うと共に、訪問によりさらに具体的に説明を行い実施を決定した。

②選定に当たり留意した点

○就職を予定している生徒、進学を予定している生徒、公立や私立の別、学年別など、バリエーションを持たせることに留意し選定にあたった。

③選定・調整に当たり障害となった点

○関東圏を中心に、多くの高等学校に電話による授業実施の協力要請を行ったが、ほとんどの学校で、既に学校行事が年間で決定しているために、年度途中で新たに授業を実施することは困難との回答を受けた。

(3) 社会保障教育プログラムの策定

都立荒川商業高等学校

①策定者

- ・担当教諭の意見を基に受託者が案を作成し、教諭からの承認を受けて完成させた。

②授業のねらい

- ・就職予定の生徒が多いため、社会生活がスタートした時に、身近な問題として年金や医療保険等にどのように対応したらよいか、またその仕組みがどのようになっているのかを理解してもらうことに主眼を置いた。

③採用した教材

- ・厚労省提供資料の中から、主に「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容」、映像教材、「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート、「公的年金」ワークシートを中心としてプログラムを作成した。
- ・生徒にとって社会保障制度が身近にイメージできるように、教員自身の年金手帳や給与明細書等を用意した。

採用した教材名	参考にした教材名
○社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容	○10個の「10分間講座」
○「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート	○社会保障を教える際に重点とすべき学習項目
○「公的年金」ワークシート	
○映像教材	

④プログラム策定に当たり留意した点

- ・就職する生徒が多いこと、また学力の面で生徒が理解できるかどうか不安があったため、生徒が興味を持って授業に参加できるよう、ビデオ教材やクイズ形式のワークシート等を用いて授業を行った。
- ・教員の側から一方的に説明するのではなく、クラス全体で意見を出し合うことができるように、少人数のグループに分けて話し合うようにした。

⑤プログラム策定に当たり参考にした資料

- ・給与明細書
- ・年金手帳

⑥作成・準備に当たり要した時間

- ・通常の授業準備は1日1時間程度で5日間かけて準備することが多いが、今回、身近な問題として認識させるためにどのように導入していくか、また、どの事例についてどのように取り組ませるか、グループ編成をどのようにするかなどを検討した。これら担当教諭と調整しつつ進めたため、1日1時間程度で約10日間を要した。
- ・グループディスカッションが初めてのケースとなるため、生徒達の自主的な話し合いが可能か、やはり教員主導による講義形式としたほうがよいか、教員の指導方針を決定するのに時間を要した。

①策定者

- ・担当教諭の意見を基に受託者が案を作成し、教諭からの承認を受けた。

②授業のねらい

- ・敬愛学園高校では、これまでに社会保障制度について簡単な用語の説明程度しかしてこなかったため、生徒がこれから社会人として生活していく上で年金や医療保険等についてどのように対応していったらよいかを理解してもらうこと、また、これらの制度がどのようにして成り立っているのかを理解してもらうことに主眼を置いた。

③採用した教材

- ・厚労省提供資料の中から、主に「社会保障を教える際重点とすべき学習項目の具体的内容」年金教材「10個の「10分間講座」、映像教材を中心としてプログラムを作成した。
- ・生徒にとって社会保障制度が身近にイメージできるように、教員自身の年金手帳や健康保険証を用意した。

採用した教材名	参考にした教材名
○社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容	○社会保障を教える際に重点とすべき学習項目
○10個の「10分間講座」	○「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート
○映像教材	○「公的年金」ワークシート

④プログラム策定に当たり留意した点

- ・生徒にとって今後、身近な問題として考えていくことになる年金をテーマに取り上げたが、これまで詳しく説明してこなかった分野であり、どのようにすれば生徒が授業に関心を持ち、集中できるかを考えた。
- ・他の教員に協力をもとめ、総合的な学習の時間で、生徒の社会保障への関心、年金問題にどの程度関心があるか、社会保障制度の仕組みや「10個の「10分間講座」の一部を用いて事前にサーベイを行った。その結果、クイズ形式は生徒の授業への集中を維持することにつながったため、これにより、同「10分間講座」を用いて、年金の仕組みやどのように対応したらよいかを説明することとした。

⑤プログラム策定に当たり参考にした資料

- ・年金手帳
- ・健康保険証

⑥作成・準備に当たり要した時間

- ・通常の授業準備は1日1時間程度として3～4日程度かかるが、今回は身近な問題として認識させるためにどのように導入していくか、サーベイをした教員との打ち合わせや年金教材「10個の「10分間講座」」の教材をプロジェクター放映するために一部加工したことにより、1日1時間で約5日間程度を要した。

①策定者

- ・担当教諭の意見を基に受託者が案を作成し、教諭からの承認を受けた。

②授業のねらい

- ・生徒がこれから社会生活を送っていく上で、考え取り組まなければならないことであることを、年金や医療保険等を例にしながら、これらにどのように対応したらよいかを理解してもらうことに主眼を置いた。
- ・また、我が国の社会保障制度が、どのような時代背景の中で必要とされ、制度化されたのかを理解してもらうこともねらいとした。

③採用した教材

- ・厚労省提供資料の中から、主に「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容」「公的年金」ワークシートを採用し、また、日頃の授業で使用している教材「最新政治経済資料集 2013」を中心としてプログラムを作成した。

採用した教材名	参考にした教材名
○社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容	○社会保障を教える際に重点とすべき学習項目
○「公的年金」ワークシート	○「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート

④プログラム策定に当たり留意した点

- ・「公的年金」ワークシートを用い、生徒みずから具体的な例に目をおし考えることで、年金の必要性を感じてもらったようにした。
- ・社会保障制度については、これまでの授業でも簡単に用語の意味や年代等について解説しているが、社会保障制度の重要性を認識してもらうために、世界の労働問題や貧困問題等にも触れながら、我が国の社会保障制度が生まれてきた背景を解説することとした。

⑤プログラム策定に当たり参考にした資料

- ・年金手帳
- ・健康保険証
- ・「最新政治経済資料集 2013」（第一学習社）

⑥作成・準備に当たり要した時間

- ・通常の授業準備は1日1時間程度として2日程度かけているが、今回は社会保障制度が生まれてきた背景について理解させ、年金や医療保険等が生徒にとってこれから身近な問題となることを認識させるためにどのような順序で説明していくかを検討したため、1日1

時間程度で約4日間要した。

- ・特に、社会保障制度を受験用の知識（用語の意味や年代の知識）として暗記するのではなく、どのようにして生まれてきたのかをどのような資料を用いて解説すればより有効かを検討することに時間を要した。

(4) 授業の実施

①東京都立荒川商業高等学校(公立)

- (1)所在地：東京都足立区小台2-1-31
 (2)受講生徒：総合ビジネス科3年生(1クラス33名)
 (3)充当教科：現代社会

1 限目

- (1)日時
平成25年11月14日(木) 11:50~12:40
- (2)講師
石井 雅洋(公民科担当教諭)
- (3)目的(ねらい)等
年金や医療保険等を対象として、社会保障制度が生徒にとって、これから社会生活を送っていく上で身近なテーマであることを理解してもらう
- (4)使用教材
 ①教員の給与明細
 ②社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容
 ③「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート
 ④「公的年金」ワークシート(ファクトシート)
- (5)内容

展開	内容	使用教材
5分	導入 ・授業を実施する趣旨説明、授業の進め方等を説明	
10分	日本の社会保障制度の説明 ・社会保障の考え方と内容を説明 私たちの生活には、自分や家族の病気、傷害、失業、死亡など様々なリスクがあり、そのリスクに対して社会全体でセーフティネットを作り、支える仕組みが社会保障制度であることを伝える。	教材① 教材②
10分	日本の社会保障制度の経緯と課題を説明 ・「社会保険」を社会保障の中心として、「社会福祉」や「公的扶助」、「公衆衛生」などがそれを補足する形で発展してきたことを説明する。 ・社会経済情勢の変化に伴い、社会保障制度にも様々な課題が生じていることを説明する。	教材②
25分	グループディスカッション ・グループに分かれて、教材③の「社会の一員として生きていくこと」のシミュレーションに取り組み、グループ内でそれぞれ自分が考えたことについて話し合う。 ・特に、社会がどう成り立ち、社会保障がどう関わっているのかを考える。 ・最後にワークシートに対する生徒の意見を聞きながら、社会保障の理念、社会保障の内容、社会保障の課題をまとめる	教材③ 教材④

2限目

- (1)日時
平成25年11月21日(木) 11:50~12:40
- (2)講師
石井 雅洋(公民科担当教諭)
- (3)目的(ねらい・テーマ)等
映像教材を用いて、年金及び医療保険の仕組みと給付内容、負担について理解してもらう
- (4)使用教材
①映像教材
②「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート
③「公的年金」ワークシート(ファクトシート)
- (5)内容

展開	内容	使用教材
5分	1限目の振り返り ・社会保障制度の機能と役割を確認する。	
25分	ビデオ教材の視聴 ・社会保障制度が私たちの生活に身近なものであることを知るために、ビデオ教材の中から、健康保険、公的年金について学ぶと共に、映像教材をとおして、身近な健康保険と年金の役割と必要性を考える。 ・社会保障制度は私たちの生活を守る身近なものであることを理解してもらう。	教材①
20分	教員と生徒との話し合いの中でまとめ ・生徒の数人に、年金や医療保険等に対する理解がどのように変化したかを発表してもらい、教員がまとめることで理解を深める。 ・教員から、様々なリスクとそれを支援するには仕組みが必要であり、社会全体でセーフティネットを作り支えようとする仕組みが社会保障制度であり、一生を通じて私たちの生活を守っている身近なものであることを説明する。 ・また、私たちは社会に属しており、社会保障制度は人々が人間らしく生きていくことができる社会を作る手段であり、社会全体でリスクを分担することが必要であることを説明する。	教材② 教材③

②敬愛学園高等学校(私立)

- (1)所在地：千葉県千葉市稲毛区穴川1-5-21
 (2)受講生徒：普通科2年生(1クラス33名)
 (3)充当教科：総合学習の時間

1 限目

- (1)日時
平成26年1月14日(火) 13:55～14:45
- (2)講師
雨谷 稔彦(進路指導担当)
- (3)目的(ねらい)等
年金問題を対象として、これから社会生活を送っていく上で、身近なテーマであることを理解してもらう
- (4)使用教材
①社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容
②教員の健康保険証
③10個の「10分間講座」
- (5)内容

展開	内容	使用教材
5分	導入 ・社会保障の授業を実施する趣旨説明、授業の進め方等を説明	
40分	年金問題をクイズ形式により学ぶ ・高校生が最低限知っておくべき社会の仕組み、年金の役割等を知らせる。 ・生徒一人一人がクイズに取組み、 高齢化社会の中でどのように生活していくか 自分たちが生活していく中で、負担と給付はどのようになるか 年金の仕組みはどうなっているのか 年金の保険料を支払わないとどうなるか などをおして、高校生として必要な知識を習得する。	教材① 教材③
5分	教員の体験から医療保険の必要性を説明 ・治療を受けた時の治療費の支払い等に対する保険適用の説明をし、生徒に医療保険の必要性を理解してもらう。	教材②

2限目

- (1)日時
平成26年1月21日(火) 13:55~14:45
- (2)講師
雨谷 稔彦教諭(進路指導担当)
- (3)目的(ねらい・テーマ)等
映像教材を用いて、年金の仕組みと給付内容、負担について理解してもらう
- (4)使用教材
 - ①映像教材
 - ②社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容
- (5)内容

展開	内容	使用教材
5分	1限目の振り返り ・社会保障制度の機能と役割を確認する。	教材②
25分	ビデオ教材の視聴 ・社会保障制度が私たちの生活に身近なものであることを知るために、ビデオ教材の中から、公的年金の役割と、これらが私たちの生活を守ってくれるものであることを理解してもらう。	教材①
20分	教員と生徒との話し合いの中でまとめ ・年金の必要性等に対する感想を数人に発表してもらい、教員がまとめていく方法で、公的年金について理解を深める。 ・教員と生徒がアンケート調査票の質問内容の意味、意図していることを確認しながら、各自アンケート調査票に記入する。	教材②

③洗足学園中学高等学校(私立)

- (1)所在地：神奈川県川崎市高津区久本2-3-1
 (2)受講生徒：普通科2年生(1クラス37名)
 (3)充当教科：政治経済

1 限目

- (1)日時
平成26年1月28日(火) 8:40~9:30
- (2)講師
綾部 沙織(社会科担当)
- (3)目的(ねらい)等
世界及び日本の労働問題を確認しながら、社会保障制度がどのようにして生まれてきたのか、また、同制度が私たちが生活していく上で、どのような役割を持っているかを理解してもらう。
- (4)使用教材
①社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容
②「最新政治経済資料集2013」
- (5)内容

展開	内容	使用教材
5分	導入 ・授業を実施する趣旨説明、授業の進め方等を説明 ・日本の社会保障制度がどのように生まれてきたかを理解するために、労働問題から解説することを説明する。	
35分	世界の労働問題と社会保障制度が生まれた背景の説明 ・世界の労働問題の中で、貧困問題が個人の責任という考え方から社会の責任に変わる公的扶助制度を確認し、ピスマルクの社会保険政策を通して社会保険の源流を理解してもらう。 ・社会保障制度の類型として、北欧型と欧州型があることを理解する。	教材②
10分	日本の社会保障制度が生まれた背景と課題を説明 ・「社会保険」を社会保障の中心として、「社会福祉」や「公的扶助」、「公衆衛生」などがそれを補足する形で発展してきたことを説明する。 ・社会経済情勢の変化に伴い、社会保障制度にも様々な課題が生じていることを説明する。	教材① 教材②

2限目

- (1)日時
平成26年1月29日(水) 11:40~12:30
- (2)講師
綾部 沙織(社会科担当)
- (3)目的(ねらい・テーマ)等
社会保障制度が生まれてきた時代背景を整理し、年金が自分たちの生活にどのような関係を持っているか、制度を継続させていくために必要なことは何かを理解してもらう。
- (4)使用教材
①社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容
②「公的年金」ワークシート(ファクトシート)
③ 最新政治経済資料集2013
- (5)内容

展開	内容	使用教材
10分	1限目の振り返り ・労働問題を整理し、社会保障制度が生まれた背景と日本の社会保険制度の体系を確認する。 ・日本の社会保障制度の枠組み(社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生)について制度の趣旨を理解してもらう。	教材③ 教材①
40分	日本の社会保障制度の説明 ・「公的年金ワークシート」ファクトシート①②を用いて、生徒にいつからいくら払って、どんなときにいくら受け取るのかを理解してもらう。 ・公的年金制度は、現役世代が納める保険料で高齢者の年金給付をまかなうという「世代と世代の支え合い(世代間扶養)」が基本になっていることを理解してもらう。 ・公的年金の負担と給付を説明し、仕組みを理解してもらう。 ・老後に備えた貯蓄と公的年金による備えを比較しながら、公的年金の特徴を理解してもらう。 教員によるまとめ ・生徒自身、社会の一員として生きていくために、社会保障制度が自分たちの生活を守る身近なもので、かつ重要なものであることを理解してもらう。	教材② 教材③

(5) アンケート調査

①授業に対するアンケート調査の実施

授業を実施したクラスの生徒及び担当教員を対象としてアンケート調査を実施した。主な質問項目及び方法等は以下のとおりである。(アンケート調査票は後掲の参考資料を参照)

ア アンケート調査の主な質問項目

【生徒用】

- ・ 社会保障教育制度の意義について理解できたか
- ・ 授業を受ける前後での社会保障のイメージがどのように変化したか
- ・ 授業の受ける前後での社会保障への関心はどのように変化したか
- ・ 授業で採用した社会保障教育の教材はわかりやすかったか
- ・ 授業でためになった内容は何か
- ・ 授業の良かった点、改善点、感想等の自由記述
- ・ 今後も今回のような社会保障に関する学習に取り組みたいか

【教員用】

- ・ 授業の行うことで生徒の社会保障制度への関心は高くなったか
- ・ 授業で使用した社会保障教育の教材は、わかりやすかったか
- ・ 授業を行うことで、教員自身の社会保障への関心度はどう変化したか
- ・ 授業の良かった点、教材の良い点や改善点、授業に対する意見・感想について自由記述
- ・ 「10個の「10分間講座」」について、良い点や改善点は何か
- ・ 今後も今回のような社会保障に関する学習に取り組みたいか
- ・ 社会保障の授業はどのような科目で扱うのが適切か
- ・ 社会保障全般への感想自由記述

イ アンケート調査の方法

原則として授業終了後に記入し回収をした。

②アンケート調査の集計結果

ア 概要

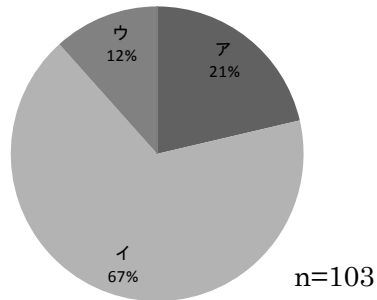
- 生徒用 (103名) (内2年生70名、3年生33名)
- 教諭用 (7名)

イ 質問に対する集計

【生徒用】

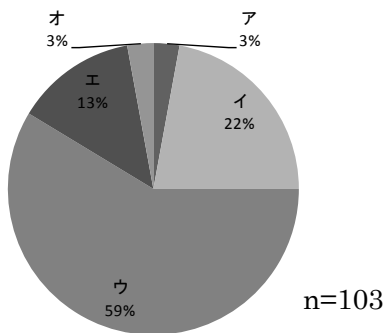
授業を受けた生徒へのアンケート調査結果は以下のとおりである。

社会保障教育制度の意義について理解できたかどうかを聞いたところ、「十分理解できた」及び「だいたい理解できた」と回答した生徒が、約88%となっており、ほぼ理解できたと考えられる。



- ア 十分理解できた
- イ だいたい理解できた
- ウ あまりわからなかった
- エ 全然わからなかった
- オ もっと詳しくしりたい

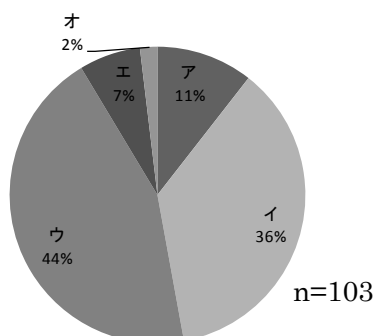
今回の授業を受ける前は、社会保障へのイメージがどうだったかを聞いたところ、授業を受ける前はイメージは良かったと回答した生徒が25%、普通だったと回答した生徒が59%を占めていた。



- ア イメージはかなり良かった
- イ イメージはやや良かった
- ウ イメージは普通だった
- エ イメージは多少悪かった
- オ イメージはかなり悪かった

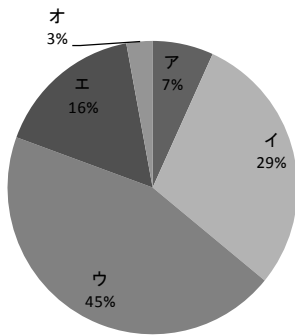
今回の授業を受けた後で、社会保障へのイメージがどう変わったかを聞いたところ、授業を受けた後では、イメージは良くなったと回答した生徒が47%、普通だったと回答した生徒が44%を占めていた。

授業を実施することで、イメージが良くなったという回答が、25%から47%に増えており、授業を実施した成果として、イメージの向上が挙げられる。



- ア イメージはかなり良くなった
- イ イメージはやや良くなった
- ウ イメージは普通
- エ イメージは多少悪くなった
- オ イメージはかなり悪くなった

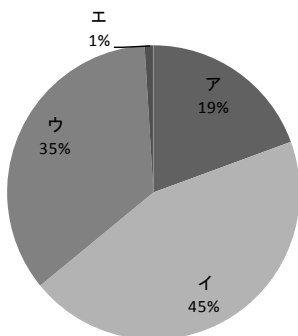
今回の授業を受ける前は、社会保障への関心度はどうだったかを聞いたところ、授業を受ける前は、関心が高かったと回答した生徒36%、普通だったと回答した生徒が45%を占めていた。



n=103

- ア 関心はかなり高かった
- イ 関心はやや高かった
- ウ 関心は普通だった
- エ 関心はやや低かった
- オ 関心はかなり低かった

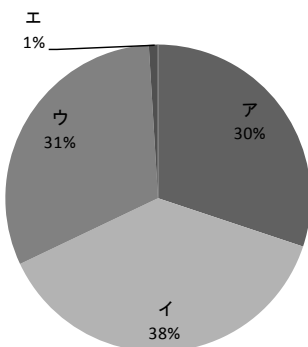
今回の授業を受けた後で、社会保障への関心度がどう変わったかを聞いたところ、授業を受けた後では、関心が高くなったと回答した生徒64%、普通と回答した生徒が35%を占めていた。授業を実施することで、社会保障への関心度が、36%から64%に増えており、授業を実施した成果として、社会保障への関心度が高まったことが挙げられる。



n=103

- ア 関心はかなり高くなった
- イ 関心はやや高くなった
- ウ 関心は普通
- エ 関心はやや低くなった
- オ 関心はかなり低くなった

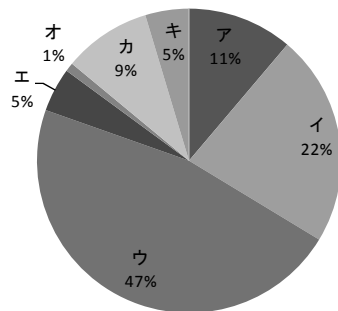
今回の授業で使用した社会保障教育の教材はわかりやすかったかどうかを聞いたところ、わかりやすかったと回答した生徒は68%、普通と回答した生徒は31%であった。



n=103

- ア わかりやすかった
- イ ややわかりやすかった
- ウ 普通
- エ ややわかりにくかった
- オ わかりにくかった

今回の授業で、一番ためになった内容は何かと聞いたところ、「公的年金のしくみ」と回答した生徒が47%であった。次いで「公的年金の意義や基礎知識」と回答した生徒が22%となっている。



n=103

- ア 日本の社会保障制度
- イ 公的年金の意義や基礎知識
- ウ 公的年金のしくみ
- エ 医療保険の意義としくみ
- オ 介護保険の意義としくみ
- カ 私たちの生活と社会保障の関係
- キ 社会保障の給付と負担
- ク その他

今回の授業で、良かった点については以下のような回答が得られた。

- ・近い将来のことを聞いてよかった
- ・ビデオの説明がわかりやすかった
- ・社会保障が詳しくしれたこと
- ・友達と意見を出し合いながら新鮮な授業がよかった
- ・生活と社会保障の関係性はわかりやすく、理解しやすかった
- ・初めてのグループワークだったので、話し合えて良かった
- ・ビデオの中で同年代の人が不思議に思ったことが説明されて、とてもわかりやすかった
- ・年金や保険の仕組みを理解していなかったが少しわかった
- ・社会保障についての勉強はあるかもしれないが、自分の考えをもとに討論する機会はそうはないので、できてよかった
- ・表がわかりやすかった
- ・職業によって年金制度が違うことがわかった
- ・公的年金の仕組みがわかりやすく説明されていた
- ・積み立て式と賦課方式を知ったこと。日本が両方の方式を採用していることを初めて知った
- ・学校授業で多少習っていたのでわかっているつもりでいた。今日知れてよかった
- ・自分の将来について、具体的なイメージを持てた
- ・クイズ形式で抵抗感がなく授業に入っていた
- ・年金を払えば無駄にならないことがわかった。おおよその金額がわかったこと。問題形式でよかった。
- ・問題形式だったので、考えながら知識を深めることができた
- ・年金の仕組みなどを教えてもらう機会がないのでよかった

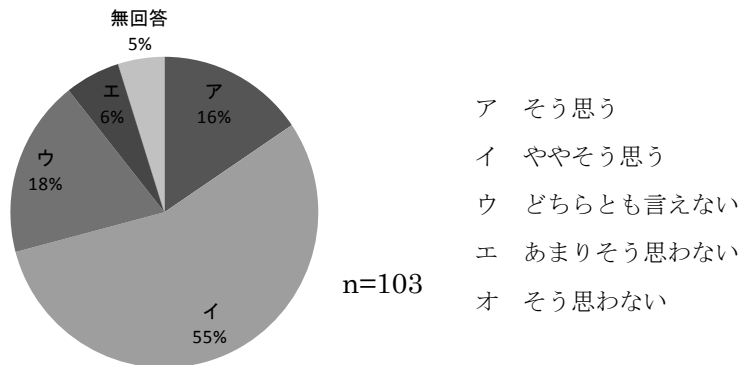
今回の授業で、改善点については以下のような回答が得られた。

- ・ビデオのあとでもう少し説明がほしかった
- ・もう少し絵や図をいれてほしい
- ・介護保険について少しわからなかった
- ・今回の授業で制度について詳しく知ることができた。高校3年生でもあまり知らない人が多いと思う。このような授業をとりいれていったほうがよい
- ・専業主婦の年金の仕組みについてよくわからなかった
- ・今後のことについても教えてほしかった
- ・社会保障制度をもっとわかりやすくすべき
- ・オリジナルのプリントが使用されていたが、クイズ形式にする意味はない。既存のものでも十分わかりやすいものがあるので、それを活用したほうがよいと思った

今回の社会保障に関する授業を受けた感想については、以下のような回答が得られた。

- ・自分達にも関係のあることだから授業ができてよかった
- ・社会保障や公的年金は国民全体で国民を支えているというところに感動した
- ・大人になって知らないと恥ずかしいと思った
- ・これまでは社会保障がわからなかったが、今はわかるようになった
- ・医療保険は本当に大切だと思う。いざ病気になって多額の金は用意できないから、保険が助けてくれてとてもよい
- ・以前から関心はむけていたが、こういった機会があり、改めて社会保障について学べてよかった
- ・なぜ日本は積み立て式にしないのだろうかと思ったが、その理由がわかった
- ・今の社会保障がどうやってできたのかの内容がおもしろかった。また自分たちが高齢者になったときの状態も心配
- ・数年後には自分も大きく関わることになることだが、よく理解していなかったので学べてよかった
- ・年金は少ないと思ったが、死ぬまでもらえたり、良い面もあると感じた
- ・老人が多くなり、若者が払う年金が増えるのは、どうにか変えることはできないかと思った
- ・理系であるため、こういう勉強はもうできないのでよかった
- ・自分で知ろうとは思わなかったが、知らないといけないと思うので、授業を受けられてよかった
- ・自分がしなくてはいけない義務を改めて確認できた
- ・あと3年で自分にもあることなので、今のうちから正しく理解し、きちんと払えるようにしたい
- ・年金は自分のためにだけ払うお金ではなく、そのお金で国が成り立っているというのが知れてよかった

今後の社会保障教育に関して、今後もこのような社会保障に関する学習に取り組みたいと思うかどうかを聞いたところ、そう思う、ややそう思うと回答した生徒が71%であった。



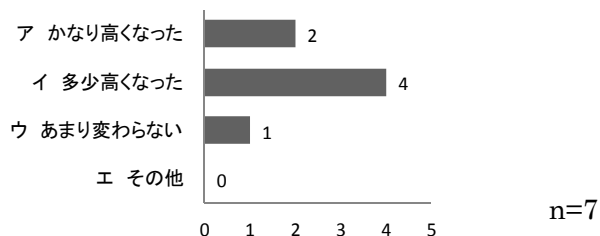
社会保障全般について、どのように思うかについては以下のような回答が得られた。

- ・ 難しいテーマだったが、自分が関わることなのでよかった
- ・ 知っていなくてはいけないことだと思った
- ・ この制度を改善した方がいいという点があったとしても、制度だけをみると社会保障は今の日本に必要な制度だと思う
- ・ 少々税収が高くなってもゆりかごから墓場までの制度を取り入れるのがよいと思う
- ・ 年金制度の見直しを！ 少子高齢化に伴い、子どもを生きやすく育てやすい環境からするべき。年金受給年齢を上げる前に、老後の保障をきちんと整えてからだ。また退職と年金受給との差はどうやって埋めるのか、きちんと制度の確立を！
- ・ 社会保障の問題点はあがっていても、その解決策はまだ見つからないので、これからもしっかり考えないといけないと思う
- ・ 少子高齢化の影響で年金の受給額の倍率に差があるようなことは良くないので、新たな法律や制度の整備が必要だと思った
- ・ 現在、少子高齢化など進行中の問題があり、固定された制度は対処できなくなってくると思うので、今後、どうなるか不安
- ・ 国費の使い方等すべてを考慮すると、社会保障があと何年続くか心配
- ・ 少子高齢化がさらに進むと予想されていて、多くの高齢者を少ない納税者でまかなっていきけるのが心配

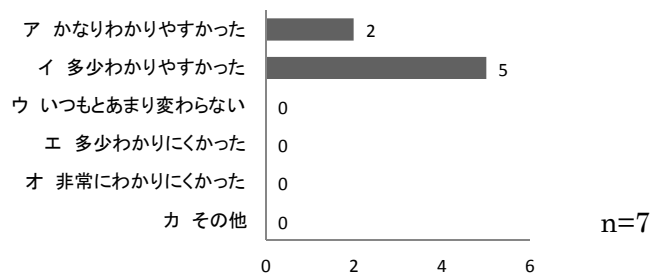
【教員用】

授業を担当した教員へのアンケート調査結果は以下のとおりである。

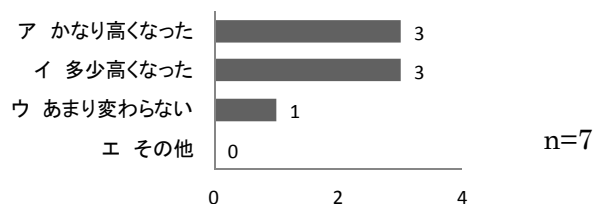
今回の授業を行うことで、生徒の社会保障制度への関心度が高くなったと感じるかを聞いたところ、高くなったと回答した教員は6人であった。



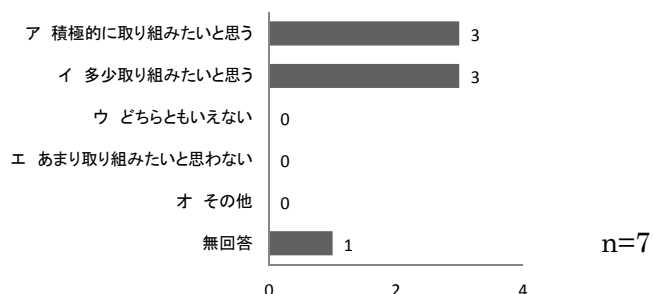
今回の授業で使用した社会保障教育の教材はわかりやすかったかを聞いたところ、7人全員がわかりやすかったと回答している。



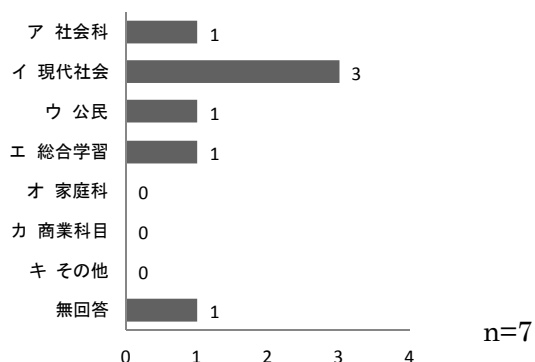
今回の授業を行うことで、ご自身の社会保障への関心度はどう変わったかを聞いたところ、関心度が高くなったと回答した教員は6人であった。



今後もこのような社会保障に関する授業に取り組みたいと思うかを聞いたところ、取組たいと思うと回答した教員は6人であった。



社会保障の授業はどの科目で取り扱うのが適切だと思うかを聞いたところ、現代社会と回答した教員が3人、次いで社会科1人、公民科1人、総合的学習の時間が1人であった。



今回の授業について良かった点については、以下のような回答が得られた。

- ・ 社会保障制度を身近なものと感じさせていること。
- ・ 年金保険の仕組みや問題点を説明することができた点。
- ・ 成人式の翌日の実施であり、近い将来年金をおさめ始めるのによりタイミングだと思います。
- ・ 年金制度の話は20歳から払うということもあり、生徒の関心も高かったのではないかと思います。
- ・ 「10個の10分間講座」について、ではどうすればよいかという点の説明をもう少ししたかった。個人年金、個人財形年金等の資料もあるとよかった。
- ・ 具体的な数字が入っていたため、生徒の中には強く印象に残った者もいた。
- ・ 内容が難しすぎず、短時間でできるので手軽に行うことができる。

今回の教材について良い点については、以下のような回答が得られた。

- ・「身近な社会保障を学んでいく」ワークシートは使いやすかった。
- ・細かく、月々支払う保険料などが載っており良かった。自分がいくら支払うのかがわかったほうが、生徒はリアリティを感じることができる。
- ・ワークシートは高校生も興味関心を持てるように構成されていると思う。
- ・「10個の10分間講座」は、クイズ形式なので生徒も取り組みやすいと思う。
- ・年金なんかかけても掛け損だという若者の声にストップがかけられてよかったと思う。
- ・「10個の10分間講座」は問題が易しかったため、導入教材としては非常に扱いやすいと思う。
- ・「10個の10分間講座」はクイズ形式で生徒も興味を持ちやすい工夫がされていた。またイラストや金額の具体例もあるのでとても理解しやすい。

今回の教材について不足している点・改善点については、以下のような回答が得られた。

- ・学校現場ではA4サイズでなく、B5サイズが基準になっています。パワーポイントやPDF資料は、B5印刷でも読める文字サイズにしてほしい。
- ・年金手帳の件や国民年金の払い込みについてももう少し説明があってもよいと思います
- ・「10個の10分間講座」は、もう少し解説等がわかりやすくなおよいと思う
- ・「10個の10分間講座」は、解答、解説にももう少し社会保障の全体がみられるような図などがあればと思った。
- ・年金制度の現状と問題点なども挙げておく必要があると思う。

今回の授業に関する意見・感想については、以下のような回答が得られた。

- ・自分自身今までの授業を振り返ることができた。
- ・生徒たちが今後生きていく上で必要な知識を最低限教えることができた。
- ・高校卒業後2年あまりで払い始める点を強調してもよいかと思う。
- ・社会保障に関して、生徒たちは聞いたことがある程度の関心ごとだと思うが、こうした授業を通じて生徒の関心が少しでも深まっていくとよい。
- ・またやってみたいと思う。

「10個の「10分間講座」について良いと思う点については、以下のような回答が得られた。

- ・余った時間で教えることができる点。
- ・10個とまとまっているのが良いと思う。
- ・身近な例が用いられており、比較的わかりやすかったと思う。
- ・分かりやすい解説で良かった。
- ・短時間で要点を学ぶことができていると思う。

「10個の「10分間講座」について不足している点・改善点については、以下のような回答が得られた。

- ・なぜ未納問題が起こるのか、という点について触れていない。
- ・もう少し解説が見せやすいとなおよい。文章はわかりやすいのですが。
- ・年金についての関心が低く、解答まで取り組まない生徒が出てしまうので、全員に説明するには十分な時間が必要だと感じた

社会保障全般についてどのように思うかについては、以下のような回答が得られた。

- ・負担と給付の問題をどう考えていくか、どう教えていくかが難しい
- ・社会人になって、やっと大切さに気づくことができる気がする。負担しているという実感がないと、当事者意識が生まれにくいかもしれない。
- ・財源の確保、介護等での人的資源に不安を感じる。個人年金加入者への税の優遇などを強化してもよいかと思う。
- ・これからの時代、我が国は高齢化がますます進んでいくことが予想され、こうした問題はより深刻になっていくと思われる。一人一人が早い段階で社会保障についての理解を深めていく事がとても大事になってくるのではないかと感じる。
- ・年金だけでなく、多くの社会保障制度が「自分のためにならないもの」になってしまっていると思う。生活格差が広がって、上と下に注意が必要なのはわかるが、中の下の人たちのことも考えてほしいと思う。
- ・年金の支給年齢の引き上げや制度の改正などによって、払い損になるようなことがないように、きちんとした管理、運用を行っていくべきだと思う

3. 授業の実施結果の検証

(1) 都立荒川商業高校

①「プログラム（授業計画）」として効果的だったと思われる点

- 商業高校であるため今後就職に向けて準備をする生徒も多いことから、授業の冒頭で、社会保障制度は高校卒業後、数年で自らの問題として考えなければならない点であることを説明したことにより、生徒の授業に対する関心が高まり、ワークシートやグループディスカッションにも積極的に取り組んだ。
- グループディスカッションでは、少人数のグループに分け、その中で各自「身近な社会保障を学んでいく」ワークシートに取組み、暮らしのやりくりや保険料の払い始める時期、貯蓄と公的年金の比較など、生徒同士で感じたことを互いに発表しあい社会保障のメリットや役割等を確認していったので、多くの生徒が意見を出し合い有意義な話し合いの時間を持てた。
- 年金や医療保険等のメリットや役割等のある程度理解した後で映像教材を視聴したため、知識を再確認することができた。

②「プログラム（授業計画）」としての問題点・改善点

- グループディスカッションでは、議論のテーマが「身近な社会保障を学んでいく」ワークシートから離れ多少拡散気味になりそうな場面もあったが、教員が各グループを周り議論の方向性を修正した。
- 議論が拡散した要因の一つとして、グループディスカッションに時間を割きすぎたことも考えられる。今後、社会保障問題に関してグループディスカッションを採用する場合は、議論のテーマや時間配分を示したレジュメなどを生徒に示すことも必要と考えられる。

③「教材」として効果的だったと思われる点

- 「身近な社会保障を学んでいく」ワークシートは、生徒に直接考えさせ自ら解答を記入させるように授業を進められるので、暮らしのやりくりや公的年金のメリット等に関心を持つことができた。教員から給与明細の説明を受けたことも、身近な例の中で公的年金の役割や保険料を納める意味を理解させることにつながった。
- 担当教員へのインタビューやアンケート調査からは、「身近な社会保障を学んでいく」ワークシートは細かな数値を示しながら具体性を持っており、使いやすく、生徒にとって社会保障制度を身近なものと感じさせることができた、という意見があった。
- また、同ワークシートは年金や医療保険等の仕組みや問題点を説明する上でも、生徒に伝達したいことが簡潔にまとめられており使い勝手が良いという意見や、「わたしたちの生活と社会保障（イメージ）」の図も、ライフスタイルを経年的に示しながら社会保障制度の関わりが紹介されており、生徒にとって今後の生活を具体的にイメージすることができた、という意見もあった。
- 「身近な社会保障を学んでいく」ワークシートや「公的年金」ワークシート等は、今後生徒が社会人となり、暮らしのやりくりや社会保障のメリット、保険料の払い込み等を考える上で参考となる教材であり、生徒自身が自ら取り組んで解答し、それについて互いに発

表しあうこともできる教材として効果的と思われる。

- 「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容」については、生徒に対してどのような点を重点的に説明したらよいか簡潔にまとめられており、社会保障制度や公的年金の意義、その仕組み等の話しを組み立てる上で参考になったとの意見があった。
- 「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目」は、社会保障の全体の仕組みが簡潔にまとめられており、この1枚で社会保障について全体を概観でき、指導する側として知識を整理するために役立つとの意見があった。社会保障制度については、授業でもあまり時間を確保できず、これまでに教員自身も簡単な準備で説明することが多かったとのことである。「重点とすべき学習項目」は教員自身、社会保障制度の全体像と何を説明したらよいかを確認できる教材として有効であったと思われる。

④「教材」としての問題点・改善点

- 生徒へのアンケート調査によると、公的年金ワークシートの「公的年金制度をより理解するためのファクトシート」の図表については、一部の生徒から細かすぎてわかりにくいとの意見があった。これについて担当教員に確認したところ、“生徒間に理解力のばらつきがあるため、一部の生徒には教材のレベルが高度過ぎたかもしれない”ということであった。
- 映像教材については特に問題点は指摘されていないが、公的年金制度と公的医療保険とを個別に説明できるような構成になっていると活用しやすい、という意見があった。公的年金制度と公的医療保険という2つのテーマが同時並行で進行しており、各テーマを単独で使用する事が難しい。各テーマを単独で活用できるように再編集することも、今後の検討課題と思われる。

⑤全体として

- 荒川商業高校では、商業高校であることから就職希望の生徒も多いが、社会人となってからその環境の中で自然に年金や医療保険等の知識を得るものと考え、社会保障についてこれまで時間をかけて詳しく授業で取り上げることはなかった。当然生徒の関心も低かったが、今回、「身近な社会保障を学んでいく」ワークシートや「公的年金」ワークシート、映像教材を使用することで、生徒自身が社会保障制度を身近なものと感じ、ワークシートに積極的に取り組むことができた。
- 担当教員の側から、“社会保障の全体像及びその年金や医療保険等について、身近な例をとおして内容を確認することができ、知識の整理に役立った”という意見があったように、「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容」や「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目」は指導する側にも知識を整理するために役立っている。今後、社会保障に関する授業を全国展開していくに当たって、まず、今回の教材を教員への再教育用教材として位置づけ、教員研修などをおして普及させていくことも効果的と思われる。

(2) 敬愛学園高校

①「プログラム（授業計画）」として効果的だったと思われる点

- 授業の冒頭で、社会保障制度は高校卒業後、数年で自らの問題として考えなければならない点であることを説明したことにより、生徒の授業に対する関心が高まった。
- 授業の方法として年金問題をクイズ形式によって解説することを選択したが、この方法は生徒へのアンケート調査でも“クイズで1つずつ説明したのでわかりやすかった”、“クイズ形式だと頭に入りやすい”という回答が多く生徒から好評を得た。
- クイズ形式の場合、生徒の視線が机上のペーパーに集中し、解説する教員側への注意が散漫になる恐れが生じるが、この点をカバーするために、プロジェクターを用いて生徒の視線を画面に集中させ、解説を行った。
- 担当教員自身の医療体験から、住んでいる地域の自治体によって、健康・医療面で行政からの補助の割合が異なること、また、公務員や企業就業者、自営業者等について年金の違いがあることなどの説明があり、生徒にとって社会保障制度が自分たちの生活を守るために重要な役割を持っていることを実感でき、それによって授業への集中と関心を維持することにつながった。

②「プログラム（授業計画）」としての問題点・改善点

- クイズ形式とはいえ「10個の「10分間講座」」についてかなり急いで実施した感じがする。
- 生徒の中にはクイズを解くことに夢中になり、教員の解説に耳を傾けることがおろそかになる生徒も数人見られた。
- 今回、総合的な学習の時間を活用したが、今後はもう少し時間を確保し授業を実施していくことが望ましい。

③「教材」として効果的だったと思われる点

- 担当教員からは、「10個の「10分間講座」」は高校生も興味・関心を持てるように構成されていると指摘されている。また、他の教員からも、“年金問題はこれまで授業の中で具体的に扱ったことはなかったが、「10個の「10分間講座」」は身近な例を用いて解説されており、生徒にはわかりやすく授業に入りやすかった”との意見があった。
- 映像教材については、年金の必要性や、これからの対応方法などについて知識を再確認する上で有効であったとの意見があった。
- 「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容」については、これまで授業の中で社会保障制度、公的年金の意義及び仕組みについて具体的に説明することがなかったことから、社会保障制度の意義や仕組み等の内容がわかりやすく、教員自身の知識を整理する上で役立ったとの意見があった。
- 「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目」についても、社会保障の全体像を把握する上で教員にとって参考になったとの意見があった。

④「教材」としての問題点・改善点

- 「10個の「10分間講座」」は、担当教員からは、家庭での会話をとおして生徒も関心を持っている年金記録問題や、実際に保険料を支払う段階になった時の払い込みの方法や、大学生のための払込猶予制度の利用方法など、もう少し具体的な解説があると、生徒もより関心を持てるのではないかとの指摘があった。
- 映像教材については、公的年金制度と公的医療保険とを個別に説明できるような構成になっていると活用しやすい、という意見があった。これは荒川商業高校で指摘された点と同様だが、公的年金制度と公的医療保険の一方のみをテーマにしたい場合に使いづらいとの意見である。個別のテーマとして活用しやすいように再編集することも、今後の検討課題と思われる。

⑤全体として

- 敬愛学園高校では、これまで社会保障については受験に必要な用語の説明や年代等を簡単に説明する程度であり、年金問題については今回の授業のように具体的に扱うことはなかった。今回のモデル授業により生徒の関心が高まったこともあり、今後、社会保障制度や公的年金の意義、仕組み等について、総合的な学習の時間やホームルーム活動、あるいは公民などの教科をとおして、いろいろと工夫されながら取り組んでいく機運が生まれたと感じる。

(3) 洗足学園中学高等学校

①「プログラム（授業計画）」として効果的だったと思われる点

○授業では、まず労働問題から入り、社会保障という考えがどのようにして必要とされ、どのような経緯で制度として確立されてきたか、また、現在、どのような点が問題となっているのかを解説したことで、生徒に対して、社会保障を単に知識として覚えるのではなく、自分達にとって身近な問題であり、今後取り組んでいかなければならない重要な問題であることを理解させることができた。生徒へのアンケート調査からも、“社会保障の問題点はその解決策はまだ見つからないので、これからもしっかり考えないといけない”といった意見があった。

②「プログラム（授業計画）」としての問題点・改善点

○労働問題の解説に時間を要してしまい、1限目に予定していた「公的年金」ワークシートを用いて身近な社会保障を学んでいくことや教員と生徒とのディスカッションが十分にできなかった。担当教員からも、“生徒にとって、まだまだ知りたい点があったような気がする。今後、社会保障について授業を実施する場合は、再度カリキュラムを検討したい。”との意見があった。

③「教材」として効果的だったと思われる点

- 「公的年金ワークシート」の中にある「ファクトシート」は、生徒に伝えたい点（公的年金制度の理念や負担と給付、貯蓄と公的年金との比較、少子高齢化への対応など）が図式を交えてコンパクトに整理されており、教員の説明を聞きながら、シートに書き込む生徒が多く観察でき、説明する教員側にも聞く生徒側にも好評だった。また、月々支払う保険料などが細かく載っており、生徒にとっては自分がいくら支払うのかがわかり、リアリティを感じることができたと思われる。
- 担当教員からは、「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目の具体的内容」については、各項目の内容が理解しやすく、公的年金の意義やその仕組み等を説明する上で参考になったとの意見があった。
- 生徒に何を話すべきかキーワードを見つける上で、「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目」は教えるべき内容が網羅されているので参考になったとの意見があった。
- 担当教員からは、「10個の「10分間講座」」についてもまとまっていて、生徒の自習用にも活用できて便利との意見を得られた。

④「教材」としての問題点・改善点

- 担当教員からは、“年金について、なぜ未納問題が起こるのか、という点について触れていない。疑問に感じている生徒も一部おり、今後の重要な課題であることを明記したほうがよい。”との指摘があった。
- また、学校現場ではA4サイズでなく、B5サイズが基準になっており、現在の教材では使い勝手が悪い。パワーポイントやPDF資料も、B5印刷した場合、読める文字サイズにしておく必要がある。”との意見があった。

○様々なニーズに対応できる教材を何種類も提供することには無理があり、学校現場で多少時間をかければ担当教員が自由に編集できるように、データとして提供していくことも検討する必要がある。

⑤全体として

- 洗足学園中学高等学校では、労働問題に時間を割きすぎ、年金や医療保険等の特徴や必要性などの説明に十分な時間を確保できなかったという点はあるが、「公的年金ワークシート」を用いた今回の授業をとおして、生徒たちは公的年金の全体像を理解し、また働き方や暮らし方別に制度に加入すること、保険料を払い込む時期や大学生になった場合どのようにしたらよいかということなど、今後社会人として生きていく上で必要な知識を最低限教えることができたと思われる。
- これまでの授業の中では、センター試験への出題を想定して社会保障制度が生まれた時代背景（歴史）や制度の名称・内容等については説明しており、年金や医療保険等の意義や必要性を、具体的な例を挙げて説明することはあまりなかった。担当教員からは今回の授業をとおして社会保障問題の重要性が理解できたという意見があり、今後は例年の授業の中に、生徒にとって身近な問題である年金や医療保険等についての説明時間を増やしていきたいとのコメントがあった。

4. 社会保障教育の全国展開・定着に向けた考察

(1) 現状の課題

- 全体として社会保障に関する授業時間が少ないことが課題として挙げられる。それぞれの学校の事情（理系などの進学希望生徒が多い場合は、社会保障に関する科目は授業時間が減らされたり、有効な教材が不足しており準備に時間がかかるなど）により他の科目との関連で、社会保障を教える時間を確保できないことや、これまでに今回使用したような具体的な事例を用いてわかりやすく解説する教材が無かったことが要因と考えられる。この点は、今回授業を実施した教員からのアンケート調査結果から、わかりやすかったと示されている。
- これまで時間をかけて取り組んでこなかったため、担当教員の側も今回提供された教材を見て、これを活用したいが、自分で準備をし授業ができるかどうか不安を感じた方もいる。電話によりモデル授業の趣旨を説明し、協力を得られそうに見えた教員も、教材を見た段階で当校では無理との返事をいただいた方も数人いる。こうした点から、今後、社会保障に関する授業を展開していくためには、まず教員への研修を実施していくことが必要と考えられる。
- 社会保障は現代社会や政治経済、家庭科など、複数の教科で教えることとなっているが、教科間を分担したりする協力関係が構築できない場合がある。

(2) 提案

【研修会の開催】

- 社会保障教育に時間を確保しにくい現状では、社会保障全体の枠組みを理解し、社会保障の理念や高校生として最低限知っておくべき社会保障の内容と対応の仕方、そして現在社会保障にどのような課題があるのかを理解させていくことだけでも必要であり、そのためにはまず、教員自身の理解を促進するための教員向け研修会を開催することが望ましい。
- 全国の教育委員会をとおして、1日程度の研修会を全国各地で開催することが望ましい。
- 研修内容は、第1に全員参加の場で社会保障全体の枠組みを整理することであり、それには今回使用した教材のうち「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目」とそれを解説した「具体的内容」が適していると思われる。
- 第2は、個別テーマに分かれた分科会形式の研修の場で、生徒の疑問に具体的に答えていくために「社会保障の理念やあり方を考える」ワークシート、「身近な社会保障を学んでいく」ワークシートのねらいと解説を教員自身がマスターすることである。参加した教員同士の議論を通じて生徒がどのような問題意識を持っており、その問題意識を解決するためにどのような授業がより効果的なのかを掘り下げていくことが可能となる。

【教材のPR】

- 検討会で作成した教材は、今回の授業実施校以外に電話で連絡をとりあった東京、千葉、神奈川の一部の教員からも、今後使わせてもらいたいなど、様々な反響があったものであり、これらの教材を全国の教育委員会をとおして周知することが望ましい。

【「総合的な学習の時間」等の活用】

○社会保障については学校全体で取り組むことが望ましいが、教育現場において教科間を分担したりする協力関係を構築することは困難であることも事実である。こうした状況の中から教科間の連携を生じさせ、学校全体の取組に発展させていくには、第1段階として、多くの教員が自分の考えで授業を行うことのできる「総合的な学習の時間」や「特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動等）」の授業の枠内で社会保障をテーマに取り上げることが学校側に推奨し、そこで教わったことを生徒がどの程度理解したかについて評価を行いながら、社会保障制度の理解が生徒にとって重要であることを教員同士で理解しあう教育環境づくりを行うことが効果的と思われる。

本アンケート調査は、今後、社会保障教育の全国展開に向けた検討を進めるための参考にするためのものです。下記のアンケートに御協力をお願いします。

所属： 1年生 ・ 2年生 ・ 3年生

性別： 男 ・ 女

1 今回の社会保障教育に関する授業について

(1) 社会保障教育制度の意義について理解できましたか。

- ア 十分理解できた
- イ だいたい理解できた
- ウ あまりわからなかった
- エ 全然わからなかった
- オ もっと詳しく知りたい

(2) この授業を受ける前後で、社会保障へのイメージはどう変わりましたか。

①授業を受ける前ではどうでしたか

- ア イメージはかなり良かった
- イ イメージはやや良かった
- ウ イメージは普通だった
- エ イメージは多少悪かった
- オ イメージはかなり悪かった

②授業を受ける後ではどうでしたか

- ア イメージはかなり良くなった
- イ イメージはやや良くなった
- ウ イメージは普通
- エ イメージは多少悪くなった
- オ イメージはかなり悪くなった

(3) この授業を受ける前後で、社会保障への関心度はどう変わりましたか。

①授業を受ける前ではどうでしたか

- ア 関心はかなり高かった
- イ 関心はやや高かった
- ウ 関心は普通だった
- エ 関心はやや低かった
- オ 関心はかなり低かった

②授業を受ける後ではどうでしたか

- ア 関心はかなり高くなった
- イ 関心はやや高くなった
- ウ 関心は普通
- エ 関心はやや低くなった
- オ 関心はかなり低くなった

(4) 今回の授業で使用した社会保障教育の教材はわかりやすかったですか。

- ア わかりやすかった
- イ ややわかりやすかった
- ウ 普通
- エ ややわかりにくかった
- オ わかりにくかった

(5) 今回の授業で、一番ためになった内容は何ですか。

- ア 日本の社会保障制度
- イ 公的年金の意義や基礎知識
- ウ 公的年金のしくみ
- エ 医療保険の意義としくみ
- オ 介護保険の意義としくみ
- カ 私たちの生活と社会保障の関係
- キ 社会保障の給付と負担
- ク その他

[]

(6) 今回の授業で、良かった点について自由にご記入ください。

[]

(7) 今回の授業で、改善点について自由にご記入ください。

[]

(8) 今回の社会保障に関する授業を受けた感想を自由にご記入ください。

[]

2 今後の社会保障教育に関して

今後も、このような社会保障に関する学習に取り組みたいと思いますか。

- ア そう思う
- イ ややそう思う
- ウ どちらとも言えない
- エ あまりそう思わない
- オ そう思わない

3 その他、社会保障全般について、どのように思うかを自由にご記入ください。

[]

本アンケート調査は、今後、社会保障教育の全国展開に向けた検討を進めるための参考にするためのものです。下記のアンケートに御協力をお願いします。

担当教科名： 社会科 ・ 現代社会 ・ 公民 ・ 総合学習 ・ 家庭科 ・ その他（ ）

1 今回の授業を行うことで、生徒の社会保障制度への関心度は高くなったと感じますか。

ア かなり高くなった

イ 多少高くなった

ウ あまり変わらない

エ その他（ ）

2 今回の授業で使用した社会保障教育の教材は、わかりやすかったですか。

ア かなりわかりやすかった

イ 多少わかりやすかった

ウ いつもとあまり変わらない

エ 多少わかりにくかった

オ 非常にわかりにくかった

カ その他（ ）

3 今回の授業を行うことで、ご自身の社会保障への関心度はどう変わりましたか。

ア かなり高くなった

イ 多少高くなった

ウ あまり変わらない

エ その他（ ）

4 今回の授業について、良かった点について自由にご記入ください。

[]

5 今回の教材について、良い点をご自由にお書きください。

[]

6 今回の教材について、不足している点・改善点をご自由にお書きください。

[]

7 今回の授業に関する意見・感想をご自由にお書きください。

[]

8 「10個の「10分間講座」」について、良いと思う点をご自由にお書きください。

[]

9 「10個の「10分間講座」」について、不足している点・改善点があればご自由にお書きください。

[]

10 今後もこのような社会保障に関する授業に取り組みたいと思いますか。

ア 積極的に取り組みたいと思う

イ 多少取り組みたいと思う

ウ どちらともいえない

エ あまり取り組みたいと思わない

オ その他 ()

11 社会保障の授業は、どの科目で取り扱うのが適切だと思いますか。

ア 社会科

イ 現代社会

ウ 公民

エ 総合学習

オ 家庭科

カ 商業科目

キ その他 ()

12 社会保障全般について、どのように思われるか、ご自由にお書きください。

[]